

中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の更新等に関する基本計画（素案）、小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備
基本計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

1 実施の概要

期間	令和元年10月15日(火)～11月13日(水)	
意見応募者数	31人(意見の件数69件)	
提出の方法	持参	7人
	送付	1人
	ファックス	3人
	メール	2人
	市民説明会	8人
	市ホームページ	12人

※提出の方法で重複提出あり

2 意見等に対する対応状況

反映済み	1件
反映する	2件
反映しない	8件
参考意見	42件
その他	16件

3 意見等への対応

番号	意見等	検討結果	対応
1	本日は様々な意見がありましたが、計画を推進するためには、市民の意見を取り入れるのは必要だと思いますが、市民も役所と設計者と一緒になって考えるというのは意見もまとまらなくなるので不可能だと思います。何をやるかは役所の判断で良いと感じました。	小平市公共施設マネジメント推進計画では、個別施設の更新等における基本的な検討手順を示し、必要に応じて市民参加で検討するとしています。今後の基本設計の段階においても、この手順に沿って、市民と意見交換等を行いながら進めていきます。	参考意見
2	中央の整備手法で公民連携とありますが、公共のサービス機能そのものなので設計はプロポーザルで構わないと思いますが、PFI等は止めた方が良く、あくまで公設公営で計画された方が良いと思います。	公共サービスの提供については、全国的にはPFIを含め様々な公民連携の手法が取り入れられていますが、(仮称) 新建物の整備においては、福祉行政や中央公民館機能を市が直接運営すること、民間事業者の活用スペースが限られていること等の(仮称) 新建物の特徴を踏まえると、民間の創意工夫の余地が少ないことから、従来型手法とします。	参考意見
3	今まで得た市民からの意見、アイデアをもう一度受け止め一緒に(協働)で進める姿勢をお願いしたい。他市でもそうしたプロセスによって公民両方にメリットが生まれた(日野市?) 事例もあります。ぜひ、なかまちテラスの反省と他市の成功例を分析していただきたいと思います。	本計画(素案) 2ページ及び3ページ第1章2「市民参加(中央・小川デザインプロジェクト)の経緯」では、平成30年度から令和元年度にかけてこれまで基本計画策定について、デザインカフェ(ワークショップ)、アンケート、ヒアリング、出前授業、オープンハウスなど様々な手法の市民参加で検討した経過を示しています。5ページ第1章3(3)「整備における配慮視点」をはじめ、9ページ第2章2(6)及び11ページ第3章2(5)「施設の機能」などにおいては、こうした市民参加でのアイデアや提案、意見を踏まえた内容として示しています。今後の基本設計の段階においても、市民と意見交換等を行いながら進めていきます。	参考意見
4	入口などにモザイクアート(小さな写真などを集めて大きな絵を作成)を、来年の東京2020オリンピック・パラリンピックに関連付けて作ると小平市のレガシーになると考えます。	(仮称) 新建物及び小川駅西口公共床では、東京2020大会に関連してモザイクアートを作成する予定はありません。	反映しない
5	子どものアイデアを最大限に取り入れると良いと思います。	中央・小川エリア周辺の小・中学校で出前授業を行い、公共施設の現状と課題を説明し、新しくできる施設でやりたいこと等を考える授業を行い、様々な意見を把握しました。市としては、子どもも含めて、中央・小川デザインプロジェクトなどでの様々な年代から頂いたアイデアも踏まえて、本計	参考意見

		画（素案）を作成しました。今後の基本設計の段階においても、子どもを含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。	
6	誰もが気軽に立ち入れるようにどうすれば良いか、よく考えて欲しいです。なかまちテラス→全く使い勝手がよくないと思います。	本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。 また、9ページ第2章2（6）及び11ページ第3章2（5）などにおいて、様々な人や世代が気軽に集い交流する場としてのフリースペースや憩いの場として軽食のできるスペースを設置する予定です。	参考意見
7	今まで3施設で使っていた駐車場スペースは確保して欲しい。使用も無料に。	本計画（素案）10ページ第2章6「跡地の用途」では、福祉会館跡地に駐車場を整備することを示しています。必要に応じ、健康福祉事務センター跡地の多目的エリアの一部や、中央公民館跡地を当面の間駐車場として活用することも検討します。 10ページ第2章5「事業手法（整備・運営）」にあるとおり、駐車場の利用者負担については、今後、検討をしていきます。	参考意見
8	無くなってしまう市民広場はぜひ別の場所に作って欲しい。	本計画（素案）10ページ第2章6「跡地の用途」では、現在の市民広場の機能を見据え、健康福祉事務センター跡地をレクリエーション、交流、イベント、駐車場等、柔軟に利用できる多目的エリアとして整備することを示しています。	参考意見
9	西部市民センターについて、現行の施設建物をつぶし、更地にし、売却するのではなく、可能なかぎり、これまで通り存続させ、災害時に備え、一時避難場所として、活用すべきである。食事・救護に関わる備品等の備蓄も兼ね備えて欲しい。	今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していくことが予想されています。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。 公共施設の移転に伴い、地域の防災機能についても再配置を検討するとともに、当該施設周辺エリアを含めて代替・補完など防災力の維持に努めます。	参考意見
10	小川駅西口地区市街地再開発事業の工事に入る前に小川駅西口の点字ブロック案内表示等の敷設を講じて欲しい。	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他

1 1	<p>視覚障がい者などへの情報バリアフリー化を進めるにあたり、日常生活による文字処理（読み書き支援）を希望します。また、図書館業務の一環として防音そうち付きキルームによる対面朗読室の充実を希望します。読み書き支援については、市がはげんされる人の養成研修の推進を行って欲しいです。</p>	<p>本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。今後、基本設計の段階においても、障がい者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p> <p>読み書き支援の養成研修については、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	参考意見
1 2	<p>11月3日の説明会にもあったように小川駅西口開発についてはかなり前から話が出ていたのですが、なかなか実現されず今日まできました。小川駅は乗降客も多く障がい者の施設があるので一日も早く安全・安心な地域になって欲しいと考えています。スピーディーな実施を望みます。</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	その他
1 3	<p>このような説明会に参加した事がなく、駅ビルの高さや何階建てなのかも知らなかったのが、他の質問者の方からの情報で98m、27階建てということがわかりました。これはおそらく決定事項なのでしょうが、他に高いビルがない所に高層ビルが建つとビル風がすごいことを前住んでいたところで経験しました。無理かもしれませんが、もう少し低い方がよいのかなというかんじはします。</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	その他
1 4	<p>小川周辺エリアの説明会及び配布資料を拝見し、全体的にバラ色過ぎた表現でまとめられており、今後の基本計画の策定、設計に当たり十分考慮して推進してもらいたいことは、説明会でも発言させて頂きましたが、再度提言申し上げます。小平市は他市に先駆けて多くの公共施設を作って来ました。市民にとってはその施設を容易に享受出来たことは素晴らしいことだし、市民ファースト的な市の行政に対して称賛したい所だが、施設の老朽化、高齢化の到来が想定出来なかったことでは済まされない。すなわちリスク管理が出来ていないと言うか、バブル時代であってもメイティナンスを考えた施設の管理が無視されて来たと言わざるを得ない。しかしながらこれらの施設と環境が小平市の優位性でもあるが、限定的なスペースに盛り沢山の要求を満たす努力は必要だが、公民館は今後の高齢化に対する公民館施設の利便性を損なう設計では困る。平日で昼間は結局高齢者が使用するのが現実であ</p>	<p>市では、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化について、これまで公共施設整備基金の積立てや計画的な財政運営を行う中でサービスを維持、継続してきました。しかし今後はこれまでと同じ規模、機能の施設を同じように建て替えることは困難であり、次の世代の公共施設づくり（本計画（素案）4ページ第1章3（2）①）すなわち、子ども達や若者にとって魅力的な施設、将来的なニーズの変化に耐えうる柔軟な施設、今後の地域コミュニティの形成に資する活動拠点となりうる施設を目指して取り組んでいきます。</p> <p>今後の基本設計の段階においても、利用者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p>	参考意見

	り、従って若いお母さん方とか、子供に特化した設計とすれば良いかと考えます。是非今後も利用者側の意見を吸い上げながら基本設計に進んでもらいたい。		
1 5	西部市民センターは売却との事、目の前に住居があり今までは環境良く生活してきました。先日の台風の際は避難所として開放してくれ心強く思いました。高齢者がつどえる様に残してもらいたいと思います。	<p>今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していきます。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p> <p>公共施設の移転に伴い、地域の防災機能についても再配置を検討するとともに、当該施設周辺エリアを含めて代替・補完など防災力の維持に努めます。</p> <p>西部市民センター機能が移転する小川駅西口公共床では、本計画（素案）11ページ第3章2（5）「施設の機能」で示すような、高齢者も含めて、様々な人や世代が気軽に集い交流する場を目指していきます。</p>	参考意見
1 6	駅前ビルに移った場合、利用者の駐車場、駐輪場を今まで通り無料を望みます。	<p>駐車場の確保については、本計画（素案）11ページ第3章2（5）⑥のとおり、新しい施設の機能に見合う規模で検討をします。駐車場は再開発区域の北東側に立体駐車場を建設する予定ですが、台数については小川駅西口地区市街地再開発事業の関係団体と協議のうえ決定します。</p> <p>本計画（素案）13ページ第3章5「事業手法（整備・運営）」のとおり、駐車場の利用者負担については再開発ビルの管理組合等と調整しながら検討していきます。駐輪場についても、同様の考え方となります。</p>	参考意見
1 7	指定管理者制度を検討とありますが、今まで通りの運営を望みます。	<p>本計画（素案）13ページ第3章5「事業手法（整備・運営）」のとおり、小川駅西口公共床の運営に関する事業手法としては、指定管理者制度などの公民連携手法を検討することを示しています。民間事業者のノウハウを活用することなどで新たな付加価値の創造等によるサービスの充実やより質の高いサービスの提供を行うため、公共床のみならず「(仮称)小川にぎわい広場」も含めて、総合的に管理運営できる体制として最適な手法を検討します。</p>	参考意見
1 8	福社会館での“入浴利用者”は今後、市内での浴場を利用する時、“無料券”を発行していただきたい。	<p>本計画（素案）8ページ第2章2「施設の機能」で、時代やニーズの変化を見据え、浴室など行政が運営する意義が薄</p>	反映しない

		<p>れている等の状況にある機能については、(仮称) 新建物に整備しないものとする考えを示しています。福祉会館の浴室を利用する方に対する無料券の発行の予定はありませんが、65歳以上のひとり暮らし等の高齢者で、自宅に浴室が無いため公衆浴場を利用せざるを得ないなどの要件に該当する方については、共通入浴券を配布しています。</p>	
19	<p>基本計画全体としては、建物にのみに検討が集中し、建物以外のソフト面や将来性への展望などへの視点あまり重視されていないように見受けられます。「箱もの」だけを見た事業計画のように感じております。ソフト面を新建物の設計の前に検討し反映して頂きたく、以下のような提案をさせていただきます。</p> <p>提案1. 時代のニーズに対応できる人材の確保。今日は高齢化社会となっており同時にまた女性の社会参加、国際化や、多様性(ダイバシティ)を前提とした時代のニーズは、これまでの社会福祉政策では充分手が届きにくい領域が生まれています。例えば若い人だけに限らず中高年者のひきこもり問題、80・50問題など、どこの窓口において、どのような専門的支援が可能なのか。就労支援と福祉は別々の窓口で良いのか。外国労働者へのサポートには語学だけではない、生活支援も必要となります。新しい時代のニーズに沿った必要となる人材の確保、教育などのソフト面での計画立案が必要ではないでしょうか。建物だけ先行しても、人材が伴わなければ、想定したサービスの提供は不可能です。</p>	<p>地域福祉施策全般に渡る意見であり、本計画(素案)の対象ではありませんが、本計画(素案)8ページ第2章1「(仮称) 新建物のコンセプト」のとおり、(仮称) 新建物は福祉行政、福祉関係機関、担い手となる市民が集積することから、将来的には包括的な支援体制づくりにおける中核的な拠点として機能することを想定しています。</p> <p>また、福祉分野の総合窓口化については、市議会総務委員会からの政策提言の趣旨を踏まえつつ、対応していきます。</p>	その他
20	<p>(No.19関連)</p> <p>提案2. 使い勝手の良い施設とサービス。市民の誰もが身近な行政サービスとして、分かり易いものでなければなりません。即ち「使い勝手の良い施設とサービス」が求められます。施設とサービスの「見える化」が非常に有効だと思います。自宅からでも、どこで、何が行われるのか、利用できる部屋の利用状況、専門家との相談予約、等々の「見える化」を重視したサービスの提供を期待します。もう一つ大事なことは、「ワンストップサービス」です。特に高齢者や障害のあ</p>	<p>(仮称) 新建物では、本計画(素案)8ページ第2章1「(仮称) 新建物のコンセプト」のとおり、生涯学習機能、集会所機能、市の行政事務機能(健康福祉事務センターの各課)を複合化したうえで動線や配置、防音などに配慮することにより、また小川駅西口公共床等においても、11ページ第3章1「小川駅西口公共床等のコンセプト」のとおり、生涯学習(公民館、図書館)機能のほか、市民活動支援、男女共同参画の機能を複合化することにより、これまで分散していた機能を複合化し、整理することでわかりづらさの解消や機能充</p>	参考意見

	<p>る方にとっては、この「ワンストップサービス」がこれから強く求められると思います。それを実現するためには、市民代表を10数名含めた「施設運営の委員会」を置き、定期的な運営状況の点検を市民目線を通して行い、必要な改善を継続的に行うことが有効だと思います。</p>	<p>実を目指していきます。</p> <p>また、福祉分野の総合窓口化については、市議会総務委員会からの政策提言の趣旨を踏まえつつ、対応していきます。「施設運営の委員会」に関しては、設置の予定はありません。</p>	
2 1	<p>(No.1 9 関連)</p> <p>提案3. 既存施設を「大規模災害時の緊急対応施設」に活用。基本計画では既存の施設は解体することが、前提となっているようですが「いつ起こるか判らない大災害時の緊急対応施設」としての活用を提案します。折角いまある建屋を、その為の緊急対応施設として、利用しては如何かと思えます。改めてそのような設備を造るのではなく、いまある建屋をそのために利用できれば、一石二鳥ではないでしょうか。</p>	<p>中央公民館、健康福祉事務センター、福祉会館、西部市民センターは老朽化が進んでいる状況であることから、新しい施設の整備後は機能を移転し取り壊すこととし、既存施設の緊急対応施設への利用の考えはありません。</p> <p>公共施設の移転に伴い、地域の防災機能についても再配置を検討するとともに、当該施設周辺エリアを含めて代替・補完など防災力の維持に努めます。</p>	反映しない
2 2	<p>第1章3 事業推進の基本的な考え方(3) ①について</p> <p>○バリアフリー、ユニバーサルデザイン、小平市の福祉のまちづくり条例の観点から、新しい施設には、ユニバーサルシートを設置した身障者用トイレの設置をお願いします。</p> <p>○多目的トイレは、様々な人が使うため、待ち時間が長くなります。移動が簡単にできない身障者のために、1階にユニバーサルシート付トイレを、2階より上の階に、その他の多目的のトイレを設置してください。</p> <p>○男子トイレ、女子トイレそれぞれの中に、親子トイレとおむつ交換台の設置をしてください。</p> <p>○ユニバーサルシート付トイレや身障者用のトイレ、手すりなどは、小障連や父母の会、小平特別支援学校PTAなど、設計段階から、当事者の意見を聞いてください。</p>	<p>ご提案の設備について、何を整備するか今後の設計において決定していきますが、本計画(素案)5ページ第1章3(3)「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。</p> <p>今後の基本設計の段階においても、障がい者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p>	参考意見
2 3	<p>意見1</p> <p>【対象箇所】(P.5)(3)整備における配慮視点② 施設の建設、運用、廃棄に至るまでの一連の過程において、エネルギーの使用量を低減するなど環境に配慮した施設にします。</p> <p>【意見】この項目に賛同いたします。施設の更新においては、</p>	<p>対象箇所の記載のとおり、環境に配慮する視点で新しい施設の整備を進めていきますが、費用対効果等を勘案して施設に整備する具体的な機能を決定していきます。</p>	参考意見

	<p>LCE（ライフサイクルエネルギー）の考えが重要ですが、特にその運用においては、太陽光発電などの自然（再生可能）エネルギーと親和性があり、自立分散型電源として機能する天然ガスコージェネレーションとの組み合わせシステム（自然エネルギー＋天然ガスコージェネレーション）を導入することで、環境負荷を低減したエネルギー効率の高い施設とすることが可能となります。</p>		
<p>2 4</p>	<p>（No.2 3 関連） 意見 2 【対象箇所】 （P. 5）（3）整備における配慮視点 ③地域防災計画で求められている防災機能の確保に努めるなど、防災力の向上に配慮した施設にします。 【意見】 この項目に賛同いたします。特に統合する3つの施設（中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館）については、これまで果たしていた避難所・備蓄所としての機能及びレベルの維持に対応し、本施策をより実効力のある形で推進するために、非常用発電機を自立分散型電源にすることを提案いたします。 【理由】 現在の市庁舎は築36年を経過しているため、市庁舎の南側に位置し「老朽化の進む中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館の複合化」による新たな施設は、地域の災害対策拠点としての機能向上が必要となり、非常時に最重要負荷を守る自家発電設備だけでは十分とは言えないと考えます。非常時のみならず、常時にも活用できる自立分散型電源、なかでも経済性及び省エネ性にも優れ、ピークカットにも寄与する天然ガスコージェネレーションシステムを信頼性の高い中圧ガスで供給する分散型電源の設置を提案いたします。（信頼性の高い中圧ガスについても近くまで来ています）（補足）特に近年は、BCP（Business Continuity Plan：事業継続計画）の考え方を地域全体に広げたDCP（District Continuity Plan：緊急時地域活動継続計画）のことで、災害時に地域ぐる</p>	<p>対象箇所の記載のとおり、防災力向上に配慮する視点で新しい施設の整備を進めていきますが、費用対効果等を勘案して施設に整備する具体的な機能を決定していきます。</p>	<p>参考意見</p>

	みで事業継続をはかるための危機管理に関する行動計画) 対策として機能できるよう、強いライフラインの確保が重要と考えます。		
25	小林正則市長がその再開発に前向きな姿勢で取り組んでほしい。三鷹市長選で当選した市長やあきる野市長選で当選した市長も駅の再開発を「税金ムダづかい」として反対を通している。そうしたことは駅の再開発には否定や反発「やらない」で通すといつかは駅自体がさびれる要因になります。小林正則市長はそれには寛容の精神で取り組み、地域活性化に全力で取り組んでほしいです。そして、2021年(令和3年)に行われる小平市長選その次の市長さんも再開発には前向きに取り組み、「肯定の立場」でつづける。小林正則市長の継承をしていくことをのぞみます。	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画(素案)の対象ではありません。	その他
26	小平市の中央図書館30年近く経ってもスバラシイ建物なので存続を求めたいです。	本計画(素案)6ページ第1章4「複合化等の方向性」とおり、中央図書館は目標耐用年数まで25年以上あり、相当期間の利用が可能であることから、引き続き使用します。	参考意見
27	「小川駅西口地区市街地再開発事業における公共床等への西部市民センター整備基本計画について」 意見、希望 ○計画通りに出来上がるよう望む(令和4年と聞くが)	本計画(素案)13ページ第3章7「スケジュール」では、現時点での想定スケジュールとして令和4年度以降に工事完了予定としておりましたが、現時点では令和6年度以降となる予定です。	参考意見
28	(No.27関連) ○店舗の中にスーパーマーケットが有るとありがたい ○小川駅と直結の廊下通路を作って欲しい。車椅子やベビーカー等がスムーズに往来できるように	店舗や駅直結の廊下等に関するご意見は、本計画(素案)の対象ではありません。	その他
29	■小川駅西口地区は小川西町中宿地域センターが近いので統合しても良いと思います。公民館と地域センターの区別を無くして、市民がスペースを共有できる多目的な使い方が施設の効率的な運営につながると思います。	小川西町中宿地域センターは、都営住宅内に設置しており、比較的新しい施設であることから、今回の機能移転の対象としていません。 公民館と地域センターのあり方については、小平市第3次行財政再構築プランの「地域コミュニティ施設のあり方の検討」の中で検討を進めています。	参考意見
30	■Wi-Fiを全館で使用できるようにして欲しい。 また、Wi-Fiが1時間で切れると会議などの進行が妨げられるので、Wi-Fiの使用時間は連続3時間以上可能にして欲しい。	Wi-Fi環境やプロジェクターを設置した部屋等、利用者の利便性向上に繋がる機能を設置します。 整備する範囲等については、今後基本設計の段階で検討し	反映する

	<p>■プロジェクターを部屋に常設して欲しい。プロジェクターの貸し出しではなく、部屋に常設すればいつでもプロジェクターを使用でき、スマホをプロジェクターに接続できればとても便利です。また、配布する紙資料を減らすこともできます。</p>	<p>ていきます。</p>	
3 1	<p>要望1 小平市の未来</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉よりも教育に重点を。若い世代の充実こそ明るい未来。 	<p>政策全般への意見であり、本計画（素案）の対象範囲ではありません。</p>	<p>その他</p>
3 2	<p>(No.3 1 関連)</p> <p>2、公共施設の役割</p> <p>30～40代を中心とした世代が、「小平なら安心して子育て出来る!」「親とも一緒に住みたい!」とインパクトのある、特色ある公共施設の建て替えを希望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小平市には、公民館・地域センターなどが多数身近にあるが、そこを利用する大人の「学びを社会に還元する」という社会参加の意識が低いと感じる。現在利用している人の意見でものごとが決められており、職員が自主性を発揮できていない。? 	<p>30～40代も含め、誰もが利用しやすく心地よいと感じる施設を目指していきます。</p> <p>本計画（素案）4ページ及び5ページ第1章3（2）③「地域課題解決のためのコミュニティや共助の拡充」の中で、学びを社会に還元する趣旨を含んだ国の動向を示しています。</p> <p>市では、公共サービスの担い手を拡充するために、学習の成果を社会に還元することに着目し、公民館で地域の課題解決に向けた講座を行うほか、市民の地域や学校での活動に対する支援や協働事業に取り組んでいます。</p>	<p>参考意見</p>
3 3	<p>(No.3 1 関連)</p> <p>3 仲町テラスからの考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テラスを利用して感じるのですが、保育室が利用しにくい。狭い。同じ時間で同じ世帯を対象の講座があるとき、保育がつかないのでは、困る。 ・市の職員の多機能化が必要。 	<p>仲町公民館・仲町図書館（なかまちテラス）については、本計画（素案）の対象範囲ではありません。</p>	<p>その他</p>
3 4	<p>(No.3 1 関連)</p> <p>4、トイレについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的トイレは、男女それぞれに各場所にほしい。 <p>男女別の多目的トイレの設置も望みます。数は男：女=1：1.5の比率で女性用多く。介助者や女子用トイレは行列がでやすいので、共有もあると助かります。</p> <p>5 新しい施設にほしい設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉スペースとカフェの併設をのぞみます。 	<p>設備については、何を整備するか今後の設計において決定していきますが、本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指します。</p> <p>跡地の用途については、今後多くの公共施設が更新の時期を迎えるため、機能を移転した公共施設の跡地は売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p> <p>中央エリアについては、本計画（素案）10ページ第2章</p>	<p>参考意見</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設には、Wi-Fi接続の強化と、犯罪防止のために照明は明るく。 小さいブースの部屋(3畳くらい)が複数ほしい。 ・建て替えにあたっての跡地は、売却せず市で保有し、有効利用してください。 	<p>6 「跡地の使途」のとおり、福社会館跡地は駐車場として整備し、健康福祉事務センター跡地は多目的エリアとして整備し、中央公民館跡地は民間事業者への貸付などの財産活用を検討していきます。</p> <p>小川エリアについては、本計画（素案）13ページ第3章6 「跡地の使途」のとおり、短期的には小川駅西口地区市街地再開発事業の工事に関連する暫定的な活用も視野に入れますが、その後は跡地を売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p>	
35	<p>1 公共床（小川駅西口再開発）への機能移転計画、「健康福祉事務センター」、「西部市民センター（小川西町公民館・図書館）」、「小平元気村おがわ東の一部機能」等、公共施設機能が低層棟4・5階に入居するとした再開発事業計画であることから、市民にとってはどれだけ便利になることか計り知れないことはもとより、再開発を取り巻く東西・南北地域の人々の生活環境も便利さに期待するものであります。</p> <p>2 特に西地域の施設「東京障害者職業能力開発校グラウンド」、「職業能力開発総合大学校」、「都立小平特別支援学校」、「緑成会病院」に於いては、各施設に関係する方々が小川駅を利用して、安心・安全に楽しく開発のまちを誇りに思っ貴たいものです。それには、素案にある「交通広場」の在り方を逆転の発想として、“地上階を2階に持っていく！”とし、交通をタクシーと送迎用自家用車のみとして人工地盤2階レベルに上げ、併せて障害者の車椅子が自由に行き来できるスロープ（最低限1/12）であるが、もっと緩い「1/14」勾配を設置するとした計画を提案したいものです。</p> <p>3 当該再開発の目玉キャッチフレーズは“小川駅、東西・南北よりの交差点！”・・・をもって東地域内のブリヂストン施設などとの連携も当該再開発は将来性に大きく期待が持てるものです。</p> <p>4 現行の素案にある交通広場プランでは「都道1・3・1</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	その他

	<p>号線」が広場の中に自由に通行でき「小平3・4・12号線」と合流出来るとしており再開発のための広場として通路以外は“空き地”が存在しているとだけになってしまいます。「交通広場」って何なのでしょうか？。気になりました。</p>		
<p>36</p>	<p>【聴覚障害者の非常時対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターをガラス張り、またはドアに透明な窓か透明な縦ラインを入れて欲しい(万が一聴覚障害者が中に閉じこめられた時に、透明な部分から外や中が見えることでコミュニケーションが可能になり、不安が軽減できる) ・各部屋、廊下、トイレなどにお知らせランプ(赤いパトライトや信号みたいなもの)を取りつけて欲しい(火事や地震などを視覚的に知らせる→聴覚障害者だけではなく、高齢者にもわかりやすい) <p>【情報保障】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受付や窓口には手話通訳者の常時配置をお願いしたい(文章が苦手なろう者が多いため、筆談でのやりとりには限界がある) ・手話の出来る職員を置いて欲しい→毎年職員の何人かが手話講習会に通えるよう後押しして欲しい ・待合室やロビーにテレビを置くなら、常に「字幕付き」の状態で見たい ・補聴器を使用している難聴者や高齢者などがより聴こえるように、床下に「ヒアリングループシステム」を設置して欲しい→特に講演会や会議などで使うような部屋が良い <p>補聴器がなくても「受信器」を使うことで聴こえの低下した方にも聴こえやすい環境を提供出来る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクターについて <p>講習会や会議、講演会に使う部屋に、プロジェクターを設置して</p>	<p>ご提案の設備について、何を整備するか今後の設計において決定していきますが、本計画(素案)5ページ第1章3(3)「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。</p> <p>今後、基本設計の段階においても、障がい者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p> <p>人的対応については、本計画(素案)の対象ではありません。</p> <p>駐車場の利用者負担については、本計画(素案)10ページ及び13ページ5「事業手法(整備・運営)」にあるとおり、今後検討していきます。</p>	<p>参考意見</p>

	<p>欲しい。</p> <p>設置場所は天井。操作機器とパソコン、マイクなどを鍵のかかるラックにひとまとめにして、部屋に置く。(大学などの設備と同様)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロビー、廊下、部屋などに文字情報が流れるモニターを設置して欲しい。 <p>【駐車場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口に車が寄せられるよう、屋根付きにして欲しい(本庁のような形でも良い) ・新しい駐車場と新しい建物が屋根付で直結するように作って欲しい(特に障害者用駐車スペースから雨天時の移動が大変なので) ・障害者にとって、駐車場の有料化が一番困る <p>避けられない問題なら、手帳掲示で無料にするなどの配慮を求む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下駐車場が可能なら、車いすの人にとっては便利になると思う 		
37	<p>(No.36 関連)</p> <p>【駐車場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースが狭い→車と車の間にある白いラインを U 字型にしてもう少し広くして欲しい 	<p>中央エリアの(仮称)新建物では、障がい者などに配慮した駐車スペースも設けます。</p>	<p>反映する</p>
38	<p>①西部市民センターの機能を移転する案になっていますが、4階、5階となると地域住民にとっては大変不便です。今の市民センターは、1階で自転車置き場も間近にあり、高齢者や障がい者も「すーと」入れます。これが一番便利です。(障がい者が車椅子で4階、5階まで上ることを想像してください。市はエレベーターを付けるというが、不便さを理</p>	<p>小川駅西口公共床は再開発ビルの4・5階になりますので、アクセス性等については現在の西部市民センターとは異なってくるものと考えています。移転・複合化等により使い勝手が変化することにはご理解ください。動線を含め、利用のしやすさについては設計において配慮していきます。</p> <p>本計画(素案)11ページ第3章1「小川駅西口公共床等のコンセプト」のとおり、公共床に整備される公共施設は、生涯学習(公民館、図書館)機能のほか、市民活動支援、男</p>	<p>参考意見</p>

	<p>解していません。自転車で来た高齢者を想像してください。今の答弁では地下駐輪場に降り、(場合によっては有料化され、金を払い)、それから4,5階に上がるこの不便さ!)</p> <p>利便性だけではありません。この地域は高齢化率も高いのだから、公民館機能を一層充実させ高齢者の生きがい・教養・健康増進に貢献する活動の地域拠点にしてください。そうすればこのような活動に関心を持つ青年も集まり、人の交流も広がります。</p> <p>また先日の台風の時も避難所として使われたとのことですが、今後は地震や台風などで避難所的活用も多くなると予想されますので、高いところは全く不便です。今の市民センターの場所で地域住民の「生きがい」・教養・福祉・安全のための改善をしながら、耐用年数が来たら建て替え、一層充実させるべきです。</p>	<p>女共同参画の機能を複合化することから、多世代の多様な活動が重なり合い、将来的には統合を目指していくパイロット的な施設と位置づけています。今後の公民館は、利用者の生きがい、一般教養、趣味の活動にとどまらず、新しいコミュニティづくりに寄与できる拠点を目指しています。</p> <p>今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していくことが予想されています。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p> <p>公共施設の移転に伴い、地域の防災機能についても再配置を検討するとともに、当該施設周辺エリアを含めて代替・補完など防災力の維持に努めます。</p>	
39	<p>(No.38関連)</p> <p>②「素案」では、西部市民センターの「跡地を売却し、新しい施設の整備費に充てることを基本」と書かれていますが、跡地売却には反対です。仮に西部市民センターの一部の機能が西口ビルに移るとしても、その跡地は公民館や高齢者施設など地域住民の生きがい・福祉充実に使うべきです。説明会で市から、「売却費用は5億円」との答弁がありましたが、実にもったいない。市が土地を所有していることは大変な財産ですから、活用を考えるべきだと思います。</p>	<p>今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していきます。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p>	反映しない
40	<p>(No.38関連)</p> <p>③ 現在の小川駅の利用者ならびに今後の利用者がどのようになるのかをよく検討してください。仮に西口公共床を市が取得するならば、このことの検討が欠かせません。現在の</p>	<p>小川駅利用者が小川駅西口公共床等を利用すると考えています。ご意見でも触れられているように「ビジネスパーソンや学生にとっての利便性の向上」などを図りながら、(仮称)小川にぎわい広場や再開発ビルの1階から3階の商業・業務</p>	参考意見

	<p>小川駅の利用者は、東村山の住民（新築マンションが相次いでいる）、学校の生徒や関係者がかなり多くなっています。また、今後 BS のスポーツ施設や研究施設の充実の計画もあるとのこと。素案コンセプトにある「ビジネスマンや学生にとっての利便性向上」も一つの重要な中身だと思います。同時に地元地域住民の生活の利便性、福祉・安全の充実の観点からも十分検討すべきです。①，②で述べたように後者の側面からは素案は大変不便ですし、「生きがい」・福祉・安全の充実の観点からも大きな問題を抱えています。</p>	<p>施設、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指していきます。</p> <p>西部市民センターの機能を小川駅前に移転することで利便性の向上を図り、本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」とおり、福祉のまちづくりや防災・安全に配慮した整備を行います。</p>	
4 1	<p>（No.3 8 関連）</p> <p>④ 小平市は大きな集いができる公共床が少ないと思います。現在の中央公民館2階や福祉会館5階にあるホールだけでは足りません。その意味で西口ビルにフレキシブルに使えるホール施設があるのはよいと思います。</p> <p>駅という利便性を生かし、「子育て世代」の施設があってもいいと思います。</p>	<p>本計画（素案）11ページ第3章2（5）のとおり、小川駅西口公共床ではダンスや音楽などの活動をするため、一般的な防音機能を備えたホール（フラットで広めの多目的室）を、5階西側に設置する予定です。また、子育て世代も含めた様々な世代が気軽に集い交流できる場としてのフリースペースや憩いの場としての軽食のできるスペース（カフェ等）を設置する予定です。</p>	反映済み
4 2	<p>（No.3 8 関連）</p> <p>⑤ 地域住民の多くの方は、西口が狭く車やコミタクも入れないなど安全性や利便性で問題があることを痛感し、この点での改善を望んでいると思います。また商店街が相次いで廃業する中で買い物の不便さを感じていると思います。小平市の産業政策、とくに農業と商店の活性化との関係で再開発を考えるべきです。たとえば、小平市の農業の発展と結びついた産直型の商店やミニスーパーなど多様でユニークな商業施設ができればおもしろいと思います。その際、西口ビルの商店だけでなく、そこからビル以外の地域に広がっていく個性的な商店がつながるようにコンセプトを考えたらどうでしょ</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。</p> <p>小川駅西口公共床や（仮称）小川にぎわい広場の活用については、本計画（素案）11ページ第3章1「小川駅西口公共床等のコンセプト」に示すとおり、周辺地域の資源等も含めたにぎわいを生み出すような取組を目指していきます。</p>	参考意見

	<p>うか。すでに西口には大変個性的な店がいくつもあります。これらの施策との関係で「公共床」のなかにも市の「何か」があってもいいでしょう。</p> <p>③に述べたように小川駅が西口だけでなく東口も含めて統一的に考え、発展の方向を研究すべきだと思います。関係する西武鉄道やBSとも話し合い、再開発費用負担についても話し合うべきです。</p> <p>「自然災害」が多くなる中で、タワーマンションへ住民が入るかどうかは極めて不透明です。再開発そのものをもう少しコンパクトにして、住民にもビジネスマンにも学生にとっても魅力的で地域の特性を生かした開発にすべきではないでしょうか。</p>		
4 3	<p>(No.3 8 関連)</p> <p>⑥ 運営については、指定管理者制度が考えられているようですが、住民の意見もよく聞き十分な検討をすべきです。市の今までの説明会では「指定管理者制度」は提案されていませんでした。また先日ひらかれた「利用者負担の説明会」(10月26日、小川西町地域センター)でも、この点での質問があり、市の回答は「今のところ導入の予定はない」とのことでした。</p> <p>指定管理者制度について、市として説明もないまま、あるいは「導入の予定はない」と回答しながら「素案」に突然提起し、決定していくのは民主主義に反します。住民が主人公なのですから、市は説明責任を果たすべきです。</p>	<p>現段階では新たな施設への具体的な導入は決定していませんが、本計画(素案)13ページ第3章5「事業手法(整備・運営)」で、運営に関して、指定管理者制度などの公民連携の手法を検討することを示しています。</p> <p>本計画(素案)の前段として、令和元年6月に公表した本計画の「素案の方向性」では、小川駅西口公共床等の運営について指定管理者制度などを検討するとし、オープンハウスや説明会などを開催し周知をしてきました。今後も本事業に関する周知に努めます。</p>	参考意見
4 4	<p>男女共同参画センター“ひらく”は、福祉会館前の新建物への移転の方が良いと思います。理由は、市役所に近い方が、市の職員や関連部と一緒に事業などが推進されると思うからです。個人のプライバシーのことなら、小川駅西口地区市街地再開発ビルの移転でも同じではないでしょうか。男女共同参画の推進は、市の重要課題の一つでもありますから、市内の男女共同参画をさらに推進するためにも、センターの立地条件は、大事な要素と考えます。</p>	<p>男女共同参画センターひらくは、男女共同参画社会を推進するために活動する個人や団体が情報収集・発信・交流の場として機能しています。また市民活動のネットワーク化を図る観点から、本計画(素案)7ページ第1章4(2)「小川駅西口公共床等」のとおり、市民活動支援センター、公民館、図書館との相乗効果が期待できる小川駅公共床への移転が望ましいと判断しました。</p>	反映しない

4 5	<p>デザインカフェでも機能を整理することで、省コスト、省スペースを図れるのではと発言しましたが、まだ決まっていない部分が多いなか、なぜかすでに決まっているという印象を受けます。もっともっと市民の意見（利用者の実感）に耳を傾けていただきたいです。こうした表向き市民参加を謳い、粛々と元来の計画を進める方法を「小平方式」といわれているそうです。私が活動する参画センターにおいても、小川西への移転が決定しているとのことですが、意見書を出させていただいた通り、中央にあるのが本来の機能を果たせ、利用も活発になると考えています。現在利用が少ないのも立地と閉鎖的な管理方法です。専門性のある職員が常駐せず、受付の管理人が入口に座っている状況は慣れている私でも利用することに躊躇します。健康センターに間借りしている歯科医師会など、独立できる団体は独立していただくことやダイレクトに市の窓口につながるものは市庁舎へ移転するなど、1つ1つ動線を確認することで、使いやすく、活気が生まれる施設となるのではと思います。私は今でもなかまちテラスの際、もっと参加して、他の市民と団結して、意見を伝えるべきだったと、後悔しています。市側もその反省を活かして、市民のための公共施設のために、持てる能力を活用していただきたいと思います。</p>	<p>男女共同参画センターの運用については、本計画（素案）の対象ではありません。</p> <p>本計画（素案）の策定に際しては、中央・小川デザインプロジェクトとして、デザインカフェ（ワークショップ）、利用者・利用団体ヒアリング、アンケート、出前授業、オープンハウス、説明会などを開催し、多くの参加者から様々な意見、提案が出されました。その中には計画策定や設計の参考となるアイデアも多く、本計画（素案）にも反映させておりますが、全ての要望に応ずることはできないことをご理解ください。潜在的な利用ニーズも含め、全体最適となるような公共施設マネジメントを推進していきます。</p>	参考意見
4 6	<p>小平の活性化と市街地再開発・公共床の整備基本計画は、会館・施設等により（ 年度）完成を目指し再開発事業が進められています。</p> <p>この事業では、公益・商益、社会福祉、健康施設、そして集合住宅（マンション）のほかに、交通広場（駐車場・駐輪場）や歩行者デッキが一体的に整備される予定です。</p> <p>小平市の現状と課題を踏まえて「政策課題の設定案」の基本的要素としては、どのような課題解決のための政策なのかを明らかにし、「目的、対象、手法」などを明らかにすることです。</p> <p>これらに関連して、住民にもわかりやすく「現状の分析及び政策課題の設定」について問題点を踏まえ、これから目指すべき政策を設定することである。その基本構想としては、</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありませんが、本計画（素案）11ページ第3章1「小川駅西口公共床等のコンセプト」のとおり、小川駅西口公共床等が再開発ビルの1階から3階の商業・業務施設、周辺地域の資源等も含め、回遊や滞在による、にぎわいの創出を目指していきます。</p>	参考意見

	<p>①地域・生活・安全・文化 ②水・緑・環境 ③健康福祉・次世代育成・生涯学習・教育 ④都市基盤・交通・産業振興 等々 地方自治・行政等について「住民が主体」となるまちを目指して「小川駅西口地区」の政策展開を考察すると、都市計画と環境政策や教育・文化・スポーツや生涯学習・産業振興（地元経済）などであり、 ⑤「一人ひとりの個性が生きる人が輝くまち」 ⑥「豊かな自然と共生する美しいまち」 ⑦「安全・安心」で、潤いのあるまち ⑧「経済力の強い活力あるまち」 ⑨「連携と交流が生み出すにぎわいのあるまち」を目指すことです。</p>		
47	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画（素案）について意見等を申し述べます。</p> <p>①小川駅周辺（西口及び東口も含め）全体として発展していくために再開発事業だけでなく、中宿商店街等も含め周辺全体の市としてのビジョンを示して下さい。</p>	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他
48	<p>(No.47 関連) ②社会的弱者（障害者、高齢者等）にとって、配慮された施設になるよう、社会的弱者の意見を充分反映した施設を追求していただきたい。そういう意見が取り入れた施設であれば、多くの市民にとって、素晴らしい施設になるものと確信いたします。</p>	<p>本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。</p> <p>今後、基本設計の段階においても、障がい者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p>	参考意見
49	<p>(No.47 関連) ③現行の個人商店が廃業に追い込まれることなく、個人商店が活かされる街づくりを追求していただきたい。</p>	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他
50	<p>(No.47 関連) ④工事中から完成まで、駐輪場の確保に全力で取り組んでいただきたい。確保が不十分であれば、違法駐輪が多くなり、</p>	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他

	<p>工事中の安全にも支障をきたします。事故があつてからでは遅いです。</p>		
5 1	<p>(No.4 7 関連)</p> <p>⑤工事中、搬入トラック等の時間調整的な駐車は、『厳禁』としてください。他の工事でも小川西町地域センター前の「こぶし通り」に駐車され、安全上の点からも非常に問題であります。組合に強く申し入れ、工事業者の契約時に徹底するようにしていただきたい。</p>	<p>小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	<p>その他</p>
5 2	<p>(No.4 7 関連)</p> <p>⑥西部市民センター跡地は売却することなく、市の所有で有意義に活用をしていただきたい。地域住民を含めた「跡地利用検討委員会」なるものを立ち上げ、充分議論を深めて方向性を導いていただきたい。売却したら終わりです。小平市の財産、ひいては我々の財産が減ります。将来に禍根を残すことは、厳に慎むべきだと考えますが、如何でしょうか？</p>	<p>今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していきます。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p> <p>「跡地利用検討委員会」の設置の予定はありません。</p>	<p>反映しない</p>
5 3	<p>施設の機能について交流スペースや憩いの場など設置について</p> <p>共生社会の観点から車椅子利用の方など障害のある方も利用しやすいように、スペースの確保やトイレへのユニバーサルシート設置やインフォメーションがわかり易く表示されるなど合理的な配慮をしてください。また、どのような配慮が必要かは当事者団体等からヒヤリングを行うなどより当事者視点での意見を必ず取り入れてください。</p>	<p>ご提案の設備について、何を整備するか今後の設計において決定していきますが、本計画（素案）5 ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。</p> <p>今後、基本設計の段階においても、障がい者を含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p>	<p>参考意見</p>
5 4	<p>公民館を作る際は、公民館利用団体・公民館運営審議会委員・公民館職員を含めた建設検討委員会を作り、建物のレイアウトや設備等を検討する制度を作っていただきたい。</p>	<p>今後の基本設計の段階においても、公民館利用団体や公民館運営審議会などを含めた市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p> <p>新たに検討委員会を設置する予定はありません。</p>	<p>反映しない</p>
5 5	<p>小平市は男女共同参画を推進する町です。その根拠となる</p>	<p>現在、小平元気村おがわ東にある男女共同参画センターひ</p>	<p>参考意見</p>

	<p>条例は2つあります。小平市男女共同参画推進条例と小平市自治基本条例です。どちらにも国の最重要課題である「男女共同参画」の推進が掲げられています。この2条例は奇しくも今から10年前にでき、大勢の市民が関わってできあがりました。男女共同参画の拠点という表現はないものの、小平市民と小平市が協力して事業を行うための拠点は小平市男女共同参画センターにおいて他にはありません。ですから、参画センターに登録する団体はセンターの中央部への移転を望んでいました。ところが、小川駅西口前ビルに移転するという案を出すということは、拠点が市役所からさらに遠のくことになり、男女共同参画を推進する市民活動団体としては残念でなりません。</p> <p>市民への説明会で、小川に移転するときには参画センターはある、という回答が担当課長から出ました。もし、西武鉄道との話し合いの結果、駅からの通路がビルにつくことになったら、その通路のどこか、あるいはビルに入ってすぐ目につく場所に男女共同参画に関する展示専用の大きな掲示板をつけることを希望します。駅を利用する高校生や若者たちに見えるようにしてほしいと思います。市は推進のせめてもの形を市民に示すことが大事です。調布の「あくろす」では国際女性デーに目を引く大規模な展示をしています。</p>	<p>らくは、市民活動支援センターあすびあとともに、公民館や図書館との相乗効果をもたらすことを目的に小川駅西口公共床に移転します。</p> <p>ご提案の看板設置位置に関しては、本計画（素案）の対象ではありませんが、市ホームページなどにより男女共同参画センターの位置に関する周知等を行っていきます。</p>	
56	<p>今の中央公民館、健康福祉事務センター及び福祉会館の跡地利用にあたって、かりに駐車場として利用出来るようになる場合は、無料にするか、或は有料にするにしても、たとえば小平市民については2時間から3時間は無料で利用出来るようにしてほしい。</p> <p>公民館と福祉会館の管理・運営については、指定管理ではなく市が直接あたるようにしてほしい。</p> <p>公民館について、いままでどうり、社会教育法のもとで公民館としての位置づけにしてほしい。</p> <p>公民館について、誰でも自由に使える勉強の為の部屋や子供部屋及び授乳室を設置してほしい。</p> <p>公民館に、今あるギャラリーの設置をしてほしい。</p>	<p>駐車場の利用者負担については、本計画（素案）10ページ第2章5「事業手法（整備・運営）」にあるとおり、今後、検討していきます。</p> <p>中央エリアの（仮称）新建物の運営については、本計画（素案）10ページ第2章5「事業手法（整備・運営）」のとおり、行政機能や中央公民館機能は市が直接運営することを基本としますが、民間事業者のノウハウを活用する観点から、維持管理や貸部屋の運営等に関して、指定管理者制度の活用の可能性についても検討します。</p> <p>小平市の公民館は、社会教育法に基づく施設として条例で設置しております。今後の位置づけに関しては、本計画（素案）の対象範囲ではありません。</p>	参考意見

	<p>公民館の防音のための設備を整えてほしい。</p> <p>福祉会館の地下にある浴場について、いままで通り設置してほしい。また福祉会館の配置については、高齢者に配慮して1階にしてほしい。</p> <p>新たな建物の設計については、具体的な設計の内容について、設計事務所や設計者に委ねる前に、あらかじめ利用団体や市民の意見を充分聞いてほしい。</p> <p>各部屋にWiFiの環境を整えてほしい。</p> <p>バリアフリーについて、ホスピタリティーの考え方に基づいた設備設計に配慮してほしい。例えば、建物の入口は階段だけではなく、スロープを設置してほしい。</p> <p>エレベーターの数を複数確保してほしい。</p> <p>トイレについては、十分な数の設置場所や広さを確保してほしい。また洋式のトイレにしてほしい。</p> <p>階段について、螺旋階段のような危険な構造ではなく、安全で十分な広さの空間を確保してほしい。</p> <p>十分な広さのロビーと喫茶室を設置してほしい。できれば、ロビーにロッカーを置いてほしい。</p> <p>各部屋の設備や窓等の構造について、その用途にしたがって利用しやすいように、利用者の意見を聞いてほしい。</p> <p>各部屋に十分な冷暖房を設置してほしい。利用者の安全のため、たかの街道と西武鉄道の踏切を渡らなくてよいように、中央図書館と地下道で繋がるようにしてほしい。</p>	<p>福祉会館の浴室については、本計画（素案）8ページ第2章2（4）のとおり、（仮称）新建物には整備しないものとします。</p> <p>バリアフリーについては、本計画（素案）5ページ第1章3（3）「整備における配慮視点」のとおり、誰もが利用しやすく心地よいと感じる、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設を目指していきます。</p> <p>本計画（素案）9ページ第2章2（6）②③のとおり、（仮称）新建物には軽食のできるスペース（カフェ等）や防音機能を備えたホールを設置する予定です。</p> <p>その他公民館及び福祉会館に関する、部屋や設備に関する意見については、今後、利用を見据えた設計を行っていきます。今後の基本設計の段階においても、利用者を含めた市民との意見交換等を行いながら進めていきます。</p> <p>地下道の整備計画はありませんが、交通安全対策を講じていきます。</p>	
57	<p>小平市の公共施設マネジメント計画素案(中央、小川)への私の思い、コメントについて</p> <p>この素案、主には小川に関するものになるだろうが自分の思いを申し上げたい</p> <p>1 小川では、2018年度4月から、再開発ビル予定建物にある公共床等の購入計画がしめされ、私の中では、西口再開発事業の件は、一気に西部市民センターの移転等の是非やその構想論、使用要領等の話に重点が傾いてしまい、結局現時点ではどちらも「検討不足といわざるを得ない」思いである。</p>	<p>平成30年5月に「小川駅西口地区市街地再開発事業に関する公共床等取得について」において、市としてまちづくりの観点と公共施設マネジメントの観点から公共床等を取得するとして以来、約1年半にわたり市民参加を行ってきました。市民参加では、中央・小川デザインカフェや利用者・利用団体ヒアリングなど様々に展開し、それぞれの結果について報告書として発行しています。また、令和元年6月には基本計画素案の方向性を示し、市の考え等についてオープンハウスや説明会を行うなど、引き続き市民参加を行い、それらを踏まえて本計画（素案）を作成しています。</p>	参考意見

58	<p>(No.57関連)</p> <p>2 人口動向と建物・施設等の寿命・維持管理は、いつの時代も大きなテーマであるが、総じて今の市の「構想計画案」には、これまでの「マネジメント＝使われ方がよかったのか否か？」などに関する比較・評価もないことで、行政としての数字中心の皮相的な問題意識しか感じられないことに不安を持つ。この点の充実、今後の補強、暮らしを考え役に立つ豊富な資料提供を望みたいがいかがか？</p>	<p>本計画（素案）3ページ第1章3（1）「公共施設を取り巻く課題と今後の方向性」で、公共施設マネジメント推進計画の内容として、市の現状を分析し将来的な課題と大きな方向性を示しています。</p> <p>市では、財政上の課題や施設の老朽化への対応だけではなく、公共施設のサービス提供のあり方や、市民活動、地域活動の将来像についても検討しています。</p>	参考意見
59	<p>(No.57関連)</p> <p>3 小川駅西口開発と期を同じくして、BSのスポーツセンター建設を聞いたが、駅の東西通路と公共施設の役割も大きくなりそうだが、それらも考慮に入れたものになるのか？</p>	<p>他の民間施設の建築や駅の東西通路との関連については、本計画（素案）の対象ではありません。</p>	その他
60	<p>(No.57関連)</p> <p>4 今後を勝手に想像するが、西部市民センターが仮に移転した場合は、やがて売却の予定となっているが、売却せずに、残すべきと考える。障害者センターなどの機能ももっと大きくなって用地が必要になる気もしているので、売却ありきではなく、十分検討してほしい。</p>	<p>今後、施設の老朽化や少子高齢化、人口減少に伴う財政バランスの悪化など、公共施設を取り巻く環境が変化していきます。このような状況のもと、施設の総量の適正化を見据えて、西部市民センター跡地については売却し、今後、更新を迎える施設の整備費に充てることを基本とします。</p>	反映しない
61	<p>(No.57関連)</p> <p>5 町の中では、「再開発は今回もむつかしいのでは？」の声も聴くが、もしそうなったら、西部市民センター移転などはどうなるのか？</p>	<p>小川駅西口市街地再開発事業は、平成19年に準備組合が発足し、平成25年にはまちづくりビジョンが策定されました。平成30年度には都市計画決定が行われ、今後、再開発組合の設立、権利変換計画の認可が行われる予定で、再開発ビルの設計を進めています。</p> <p>ただし、本計画（素案）13ページ第3章7「スケジュール」のとおり、再開発ビルは再開発組合の施工の状況によっては変更となる可能性があります。西部市民センターの機能は再開発ビルが完成次第、機能を移転します。</p>	参考意見
62	<p>(No.57関連)</p> <p>6 各種の説明会があったわけだが、もう少しわかりやすく、1回の時間ももっと時間を長くとれ、の声も聴く。公報の際</p>	<p>本計画（素案）の説明会については、市報、市ホームページ、ポスター・ちらしの公共施設の掲示に加え、近隣住民へのポスティングも行いました。また、説明会においては、本</p>	参考意見

	も、もっと市民の関心を呼べるような広報や呼びかけを考えてほしいと思った。サラリーマン家庭の方など、全く情報を知らないまま、とのご不満も多いと感じている。	計画（素案）の内容をわかりやすくまとめた資料を別途用意するなど、わかりやすさにも配慮しました。時間についても、可能な限り時間を延長し、質疑応答を行いました。	
6 3	第3章5事業手法について ①「指定管理者制度の検討」ですが、多くが業者の営業が主になり、内容、質が低下することが予想・心配されます。市民の多面的な要求を受け止め重視することが軽視されるからです。検討する内容、方法など市民に明らかに意見を聞くことを必須条件にすべきですし、指定管理者制度ありきは問わないことです。	指定管理者制度については、民間事業者のノウハウを活用することなどで新たな付加価値の創造等によるサービスの充実やより質の高いサービスの提供を行うために検討を行うものです。また、指定管理者制度を導入する場合は、モニタリングなどにより指定管理者を監視し、利用者等に対するサービスの低下にならないような仕組みがあります。	参考意見
6 4	(No.6 3 関連) ②部屋の使用料の見直しや、駐車場の有料化等、市民負担を増やさない方向で考え、検討すべきです。市としてはっきり市民負担増はしない決断をしておきたいです。市民の移動は生活の基本です。足カセを増やさないことです。	本計画（素案）13ページ第3章5「事業手法（整備・運営）」のとおり、部屋の利用料については小平市第3次行財政再構築プランの中で検討します。 駐車場の利用者負担については、今後、検討していきます。	参考意見
6 5	小平市小川駅西側再開発に関するパブリックコメント 1 計画施設は西武国分寺線小川駅の東西を結ぶコンコースの中心線と地上からの高さ（GL+5m500）を基準として設計すべきであろう。 2 緑成会病院からの既設道路の延長と、この駅内コンコースからの延長に設ける今回施設のメイン通路との間に車いす対応の諸施設（エレベーター、斜路、エスカレーター階段等）を設けて建物全体のコアとする。 3 この小川駅コンコースレベルの基準高さ（GL+5m500）の下部（GL部分）には緑成会病院からの既設道路の延長部分に道路構造令でいう有効高さが確保できる交通広場を設け、既存の各道路と接続させる。 4 この交通広場の上部は、 a、何も設けず青空とする。b、人工地盤を設け、樹林を植えて公園状のペDESTリアンデッキとする。c、複数階の市	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他

	<p>の施設とする。d、超高層のマンションとする。(この場合マンションの出入口はGL+5m500部分とするが廃棄物処理施設等は地上階に設ける)</p> <p>5 超高層部分(マンション部分)の位置は北側居住者の事を考慮して敷地南側に設ける。</p> <p>6 既存小川駅コンコースと今回計画施設との間(約5m800)の現況の西武鉄道敷地内に西武側の費用で連絡橋を設け、今回施設のメイン通路と有効に連結させる。これにより小川駅東側からの利便性も増す。</p> <p>7 現況の西武鉄道小川駅構内に西武側の立場で広大な駐輪場、駐車場を設け駐輪場へは上記連絡橋の下部を経て導入する。なおこの連絡橋の下部の有効高さも非常時の事を考慮し4m500確保させる。</p> <p>8 施設全体の北側には商業施設のバックヤードやお客様用の駐車場等を新たに設け、既存の公園を整備する。また市の施設を交通広場の上部に設けない場合にはこの部分に設ける。</p>		
6 6	<p>①憩いの場の提供 現在の中央公民館の“ふらっとロビー”や“館内の中庭”および公民館と中央図書館の間の空間などの市民が気軽に立ち寄ることができずずっとそこにいたいと思えるような場所の維持を是非お願いいたします。(なかまちテラスのような無機質で殺風景な空間にしないで欲しいです)</p>	<p>憩いの場の提供については、中央エリア及び小川エリアについて、本計画(素案)9ページ第2章2(6)及び11ページの第3章2(5)のとおり、様々な世代が気軽に集い交流する場や憩いの場としての軽食のできるスペース(カフェ等)の設置を目指していきます。 今後の基本設計の段階においても、市民と意見交換等を行いながら進めていきます。</p>	参考意見
6 7	<p>②子供の様子展示 何か未来に向けたメッセージ(例えばみんなでつくろう、みらいのこだいらし)のようなものを一文字を一つの小学校か中学校の生徒全員を人文字で作り、その写真を撮って額に入れてそれを並べてメッセージをつくるというのはいがかでしょうか。未来を担う子供たちが親近感を持って新しい施設</p>	<p>本計画(素案)4ページ第1章3(2)①「次の世代の公共施設づくり」とおり、将来にわたり長く使い続ける公共施設を整備するに当たり、子どもたちや若者にとって魅力的なものであるという観点で事業を進めていきます。 今後の基本設計の段階においても市民と意見交換等を行うなど、親近感の醸成も見据えて、多様な世代が新しい施設づ</p>	参考意見

	に行けると思います。	くりに関われるよう努めていきます。	
68	西武鉄道西武国分寺線小川駅と新建物とのカップリング方法の論議の結論。再開発ビルとその経過と負担割合は？（交通網）	小川駅西口地区市街地再開発事業そのものについては、本計画（素案）の対象ではありません。	その他
69	フレキシブル多目的フリースペースの利用についてギャラリーの開放はどのような取り決めで行うことを考えているのか？	現段階ではギャラリーなど具体的な部屋機能を設置するかに関しては未定です。フリースペースや各部屋の利用方法等については、今後、検討を進めてまいります。	参考意見